

学校支援を積極的に進める

学校の教育活動を支援するPTA活動

小牧市立小牧南小学校PTA

1 はじめに

本校は、小牧市の中央部に位置している。校舎の老朽化および狭隘化を解消し、安心して学ぶことのできる学習環境と快適に過ごせる施設を整えるため、令和2年度より新校舎の建設が始まった。今年度は新校舎と、運動場の南半分が開校し、令和5年度の完全開校に向けて工事が行われている。



【完成した新校舎】

1873（明治6）年に創立し、令和5年度には創立150周年を迎える。校訓

「強く 正しく 力いっぱい」の精神をもとに、個々の子どもの持っている良さや可能性を引き出せる学校づくりを目指している。また、住民の多くが本校の卒業生であることが多いため、保護者や地域の学校に対する愛着が深く、小学校の教育活動に対して協力的である。

今年度の児童数は840名、学級数は30学級（特別支援学級4を含む）であり、PTA会員は628世帯である。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

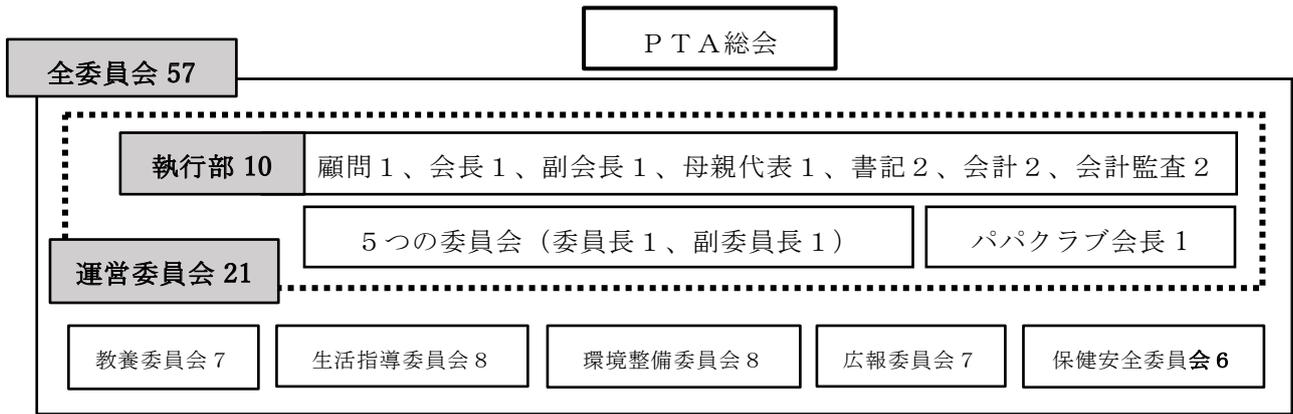
本校PTAは、スローガン「育てよう心豊かな強い子を 深めよう親子のふれあいを 広げよう会員の輪を」のもと、家庭や地域と連携を取りながら積極的に学校支援を推進している。令和元年度末より続く新型コロナウイルス感染症のため、従来実施してきた各種行事が縮小・中止となり、計画通り開催できない状況が学校・地域ともに続いている。

今後は新たな生活様式に即した取組を行うことが必要である。そこで、PTAとしてどのような学校支援が可能であるのかを模索し、本研究を進めることにした。

(2) PTA組織と地域団体との関係

会長を中心とする執行部は、PTA総会や全委員会、運営委員会を取り仕切り、各委員会をまとめ、後任人事の選定に尽力する。また、各地区より選出された地区委員は、5つの委員会のどれかに所属して専門活動を創意工夫して行っている。パパクラブ（おやじの会）は、運営委員会に組織され、地域の各組織と連携しながら活動を行っている。

以下に、組織図を示す。



3 実践活動の概要

(1) 執行部の活動

① 校舎移転時の引越ボランティア

引越ボランティアを募り、3月の毎週末に家庭科室や理科室などにある膨大な学校備品を新校舎に移設するために、物品の整理整頓や箱詰め作業などを行った。業者の引越作業だけでは間に合わないような細部の物品の移設・運搬についても協力した。



【特別教室の物品を収納する様子】

② 旧校舎お別れ会と新校舎内覧会

4月初旬にPTA役員が中心となり、地域住民を対象に実施した。当日は、旧校舎と新校舎の受付や館内の案内などの役割を行い、思い出のある学び舎に別れを惜しむ卒業生の姿や、親子三代で新校舎の見学を楽しむ光景も見られた。

③ 教育講演会

家庭教育の意識の向上につながる活動を行っている。過去には、子育ての大切さについて漫才師や講談師のお話を通して考えたり、電子機器の多用によって質の良い睡眠が不足していることへの対策や改善について動画配信を活用して学んだりした。今年度の初回は、民放の元女性アナウンサーを招いて、子どもの思いを引き出す話し方や子どもに伝わる話し方について、数々のエピソードから学んだ。分かりやすい内容で



【元アナウンサーによる講演】

参加者から好評であった。

④ 体育発表会（運動会）の運営補助

校舎改築中のため3年間運動場を使用することができず、最寄りにある市のグラウンド施設を借用して、2学年ずつによる体育発表会を行っている。学校からグラウンド施設までの交通安全指導や、会場設営・片付けなどをPTA役員で協力して行っている。

(2) PTA各委員会の活動

① 教養委員会

PTA会員の交流と情報交換の場として、年2回教養講座を開催している。初回は「女性ホルモンと体のトリセツ」というテーマで更年期の症状や基本的な生活習慣の大切さについて学んだあと、骨盤の歪みを整える軽い運動などを体験した。また、年1回社会見学を企画・運営している。定員を減らし、移動時などの感染対策も万全に実施した。

② 生活指導委員会

児童が通学路を安全に歩行できるように、通学路に設置されている交通標識の状態を確認したり、みどり線の必要な道路の現地調査をしたりした。また、リサイクル運動にも取り組み、環境保全の観点や物を大切に使う気持ちを育むために、使用しないランドセルや体操服などの物品を集め、秋の学校公開日にほしい方に譲渡している。

③ 環境整備委員会

従来年3回実施していた資源回収が、コロナ禍のため中止となった。昨年度は学校に持ち寄り方式で実施し、牛乳パックを中心に児童も積極的に持ち寄り、成果を上げた。

しかし、回収量が少ない課題があった。そこで、今年度は従来形式に戻したが、回収量は少なかった。原因として、

地域に無料の回収場所が増えたことや、回収日まで保管しない家庭が増えたという生活様式の変化が考えられる。収益金も減少しているので、資源回収の在り方を検討する必要性を感じた。



【過密に留意した保護者のみの回収作業】

④ 広報委員会

委員が各種行事を随時取材し、紙面の構成や撮影した写真の選定などを行って、見やすく親しみやすい紙面づくりを心がけ、PTA新聞「みなみ」を年3回発行している。また、学校ホームページを通して活動内容を発信することで、「見える化」を図っている。

⑤ 保健厚生委員会

1年生を対象に「自分を守ること、自分を大切にすること」を主題に、不審者から逃げるための護身術を学んだ。参観者は、実際の事例紹介から助けを求める重要性を改めて認識することができた。

また、2年間実施できなかった給食試食会を、感染対策を万全にして行った。50名の参加者を3クラスに分散し、配膳体験もして黙食で行った。栄養バランスの整った給食であることを実感する良い機会となった。さらに、年1回、学校保健委員会を開催している。今年度は睡眠の大切さについて学び、児童とともに健康保持について関心を高める機会となった。



【感染対策をして参観する保護者】

(3) 学校支援ボランティア

保護者と地域住民を対象に、年度始めに参加希望者を募り活動を行っている。

- ① 図書整備活動ボランティア
図書エリアの環境整備
- ② 学校生活支援ボランティア
南スポーツセンターへの移動や体育補助（体育時の見守り・水泳授業の補助）等の教育活動のサポート



【ブックカバーを取り付けるボランティア】

- ③ 花ボランティア
花の定期的な植え替えや世話、除草等の快適な校庭の環境づくり
- ④ 登下校見守りボランティア
児童の安全な登下校の見守りと、各地区の危険箇所の把握

(4) 地域との連携 ～各種団体による学校支援～

父親で組織されたパパクラブは、「校庭キャンプ」や「逃走中」などの活動を行っている。親子で災害時の体験活動や人気番組を参考にしたレクリエーション活動を企画・運営している。コロナ禍で企画が相次いで中止となったので、「ロパクコンテスト」など新たな企画を模索している。

4 おわりに

コロナ禍のため、様々な制限のある中でPTA活動が再開された。世の中の情勢に合わせて柔軟に変化していく部分と、連綿と続く家庭と地域をつなぐ重要な役割を果たさなければならないと考える。また、保護者の負担軽減を図りながら、学校を効果的に支援していく体制づくりを模索していきたい。